

## 【 近江環人地域再生学座 平成22年度後期シラバス】

### ■エコ・テクノロジー特論 (2単位) 通常金曜4限 (14:50~16:20)

#### 【概要】

サステナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術およびそれらを活かして持続可能な環境共生型社会を実現するための制度や政策について体系的に学ぶ。

(1) 環境保全に関わる制度・政策：エコテクノロジーを活用して環境保全をはかり、持続可能な環境共生型社会を実現することを目指した各種の制度の事例や、今後とるべき政策について講義を行う。

(2) 省エネルギーと創エネルギー：自動車や家電に代表される省エネルギー技術や、太陽、風力、バイオマスなどの新エネルギー変換技術、燃料電池やリチウムイオン蓄電池など環境調和のための発電や蓄電技術など、これらのエコ技術に関する講義。

(3) 居住設備とパッシブソーラー：住宅における冷暖房や環境に対する負荷の低下を図ることを念頭に置き、パッシブヒーティング、パッシブクーリングなど我が国の気候や地域性を踏まえた様々な環境共生型の居住設備に関する講義。

(4) 地球環境モデル地域創出のための環境技術：居住空間、複合施設、都市空間、農業・産業社会の各環境技術に対する地域の取り組みと地域づくりについて講義。

#### 【授業計画】

- |      |       |     |   |                   |
|------|-------|-----|---|-------------------|
| 第1回  | 10/1  | (金) | イントロ：循環型社会の創造と環境技術  | 山根・松岡・高田          |
| 第2回  | 10/8  | (金) | 環境技術の基礎-1：産業・交通・民生部門：省エネと新エネ技術  | 山根                |
| 第3回  | 10/15 | (金) | 環境保全に関わる制度・政策：低炭素社会に向けた滋賀県のとりくみ<br>杉江弘行 (滋賀県環境政策課温暖化対策課長)・仁連                            |                   |
| 第4回  | 10/22 | (金) | 環境技術の基礎-2：水と環境：水質浄化技術   | 南川久人 (工学部機械)・山根   |
| 第5回  | 10/22 | (金) | 環境技術の基礎-3：電力：発電・蓄電技術  | 稲葉博美 (工学部電子)・山根   |
| 第6回  | 10/29 | (金) | 環境技術の基礎-4：里山・生き物  | 野間直彦 (環境科学部生態)・松岡 |
| 第7回  | 11/19 | (金) | 環境技術の事例・研究-1：ガラスの再資源化<br>加藤聡 (クリスタルクレイ株式会社取締役副会長)・松岡                                    |                   |
| 第8回  | 12/3  | (金) | 環境技術の事例・研究-2：建築への応用<br>太田浩史 (東京大学生産技術研究所講師・デザイン・ムーヴ 一級建築士事務所)・松岡                        |                   |
| 第9回  | 12/17 | (金) | 環境技術の事例・研究-3：廃プラスチックのリサイクル<br>徳満勝久 (工学部材料)・山根   |                   |
| 第10回 | 12/17 | (金) | 環境技術の事例・研究-4：都市空間<br>近本智行 (立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授)・松岡                                    |                   |
| 第11回 | 1/14  | (金) | <u>環境技術の事例・研究-5：低炭素社会と地産地消エネルギー</u><br><u>(日程変更の可能性あり) 山田実 (ザ・グローバルシンク取締役・県会議員), 山根</u> |                   |
| 第12回 | 1/14  | (金) | 環境技術の事例・研究-6：環境対応型ポーラスコンクリート<br>畑中重光 (三重大学工学部建築学科教授)・高田                                 |                   |
| 第13回 | 1/14  | (金) | 環境技術の事例・研究-7：環境調和型バイオミメティック建築<br>石川幸雄 (三重大学大学院工学研究科建築学専攻特任教授)・高田                        |                   |
| 第14回 | 1/21  | (金) | 演習1   | 山根・河崎・松岡・高田       |
| 第15回 | 1/21  | (金) | 演習2   | 山根・河崎・松岡・高田       |

【成績評価】 出席状況およびレポート提出によって評価する。

【テキスト、指定図書、参考書】 講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。

【会場】 10/22はA3-206、1/14はサテライト、その他は交流センター研修室5での開講。

## ■地域再生学特論（2単位） 通常金曜日5限（14:50～18:00）

### 〈授業のねらいと内容〉

琵琶湖を中心に形成、継承されてきた滋賀県固有の歴史・文化・自然を基盤とした、生きた地域再生学を学ぶために、「地元学」の観点から、県内の取り組みを教材化し講義する。

「地元学」に共通するテーマは、地域の特色を活かし地域の将来ビジョンにもとづく地域再生の手法の修得及び地域再生に係る事業の企画、調整、実施、改善のプロセスをオーガナイズし、行政、企業、市民、専門家等をコーディネートする総合能力の開発である。

それぞれの地域で、行政或いは専門家として地域をとりまとめてきたリーダー・コーディネーターによる実践的講義を通して、地域再生の取り組み及び近江環人地域再生学座が育成する「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について学ぶ。

〈コアスタッフ〉 布野修司、黒田末壽、濱崎一志、森川稔

### 〈授業計画〉

- |      |       |     |  |
|------|-------|-----|--|
| 第1回  | 10/1  | (金) | イントロダクション：滋賀の地域再生とコミュニティ・アーキテクト<br>布野修司・森川稔                  |
| 第2回  | 10/8  | (金) | 彦根学：城下町保存とまちづくり<br>山崎一眞（滋賀大学教授）・濱崎一志                         |
| 第3回  | 10/15 | (金) | 高島学1：農林業の再生から地域の再生へ<br>中尾友一（アマタ株式会社持続可能経済研究所研究員）・黒田末壽        |
| 第4回  | 10/29 | (金) | 高島学2：関西のふるさとづくり～環の郷への想い<br>海東英和（前高島市長）・黒田末壽                  |
| 第5回  | 11/5  | (金) | 長浜学1：黒壁のまちづくり<br>伊藤光男（株式会社黒壁 代表取締役常務）・森川稔                    |
| 第6回  | 11/5  | (金) | 長浜学2：厚みある都市魅力創出を目指して<br>吉井茂人（長浜まちづくり（株）コーディネータ）、森川稔          |
| 第7回  | 11/26 | (金) | 近江八幡学1：歴史的資源と地域再生 濱崎一志                                       |
| 第8回  | 11/26 | (金) | 近江八幡学2：生き甲斐のまちづくり<br>石井和浩（NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会）・濱崎一志       |
| 第9回  | 12/10 | (金) | 意見交換1：コミュニティ・アーキテクトとは何か 布野修司・森川稔                             |
| 第10回 | 12/12 | (日) | 近江地域再生フォーラム 森川稔  |
| 第11回 | 12/24 | (金) | 東近江学：びわ湖の森を元気にする仕組みづくり<br>山口美知子（滋賀地方自治研究センター理事）・森川稔          |
| 第12回 | 12/24 | (金) | 湖北学：湖北中山間地域における集落再生の取り組み<br>押谷茂敏（有限会社 押谷地域設計 代表取締役）・森川稔      |
| 第13回 | 1/28  | (金) | 大津学1：新たなコミュニティ創造の取り組み<br>蔭山歩（龍谷大学オープンリサーチセンターリサーチアシスタント）・森川稔 |
| 第14回 | 1/28  | (金) | 大津学2：都市プランナーとまちづくり 森川稔                                       |
| 第15回 | 2/4   | (金) | 意見交換2：地域再生とコミュニティ・アーキテクト 布野修司・森川稔                            |

〈成績評価〉 各回授業内でのミニレポート（第15回を除く14回×5点＝70点満点）と、近江地域再生フォーラムでのパネル提出10点、最終レポート（20点満点）で評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポートを提出すること。なお、この場合、評価点は通常より1段階下とする。

〈テキスト等〉 各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。

〈現地見学〉 可能な限り、講義に先立った現地見学をすること。

## ■コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ（2単位）

土曜日3限～5限 13:10～18:00（各ゼミでの調整による）

### <授業のねらいと内容>

この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。

具体的には以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。

- ・地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。
- ・デザインシャレットやワークショップといった集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。
- ・大量の情報や議論をうまく扱い、より広範囲の選択肢を示しながら、容易ではない合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。
- ・コスト、日程、法規、材料、技術、自然環境といった与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。
- ・現実のプロジェクトで起こりがちな未知のことに遭遇し対処していくことで体得できる、問題解決に対する即応性や柔軟性。

<コアスタッフ>森川稔、鵜飼修

### <授業計画>

前期終了後に受講生対するヒアリングを行い課題プロジェクトを決定する。課題プロジェクトは、受講生が実務で直面している課題をプロジェクトとして位置づけるケースと、教員が実施しているプロジェクトへの参画するケースのいずれかが選択可能である。

授業は、第1回目にオリエンテーションを行い、配属ゼミ、指導教員を決定し、目標設定を行う。その後、定期的にゼミを実施し、プロジェクトの企画、進行状況等についてゼミ担当教員から指導を受け、ゼミ生同士の意見交換を行う。また、適宜、指導教員に報告を行い、指導を受ける。12月中旬に全体での中間報告会を行い、学期末に、成果発表会、講評会を行う。プロジェクト報告書やポートフォリオを作成し成果を公開する。

なお、プロジェクトによっては、地域の事情に応じて実施時期を調整することがある。

### <成績評価>

評価は、発表会、ゼミへの出席状況と、評価シートに基づく自己評価・指導教員の評価により行う。

### <指導体制>

- ・指導教員：受講生が取り組む地域プロジェクトの指導に適した本学内外の教員
- ・ゼミ担当：森川 稔、鵜飼 修

### <平成21年度実習事例>

【安土町における着地型観光プロジェクト】 フィールド：安土町 実施者：Bコース

【キッズ学芸員の育成 ～近江八幡ヴォーリス展を通じて～】 フィールド：近江八幡市 実施者：Aコース

【下石寺元気再生プロジェクト ～わたしの紡ぐ3つの世代～】 フィールド：彦根市 実施者：Aコース

【都市住民の共感を得る「高島エコナレッジの郷」創造プロジェクト】 フィールド：高島市 実施者：Bコース